

第1号議案 2018年度事業報告承認の件

2018年度事業報告 (総括)

6期(2018年度)は、新たに理事7名と幹事9名を迎えてスタートした。

2年制5期2クラス進級(76名)、6期8クラス(335名)と応募未達の2学科を特別講座(66名)として、午後をフリーとして開講した。

7期募集に関しては、早期に対策を講じるため講座検討委員会には募集委員以外にCA他卒業生をメンバーに加え、講座検討委員会議を実施し募集学科を決定した。

しかし、応募者未達の学科があり、急遽追加募集のチラシを作成し3月15日迄募集活動を行い、応募者の未達は少しは減少できたが、未達学科において、一人CAのクラス運営をお願いする事となった。また、応募者がホームページから申し込めるようにシステム化した。

事務所は豊中に一本化し、各部門間の意思疎通の充実に図り、迅速且つ的確な対応が出来るようになった。

大阪府北部において、自然災害の多い年で、休講に及ぶ事態が発生し、各科クラス運営や公開講座にも支障(連絡・代替日・講師・教室等)をきたした。

卒業後の進路については、教務部と地域連携渉外部で、北摂各地域の行政・社協・同窓会、SA北ブロックとの連携を密にし、本年度カリキュラムの「地域連携交流会」を5地域で同時開催したが、当初の目的の地域に戻って(同窓会・SA会)活動する内容に至らず同窓会・SA会への加入も例年よりも少なかったことは次年度に向けての課題となった。

中期計画検討委員会において、次年度以降に向けて、ONCCのあるべき姿の骨格を示すべく検討をした。

- ①ONCC「地域密着型カレッジ」の確立
- ②卒業後の活動の支援とONCCとの結びつき
- ④地域エリア
- ⑤各部の業務の見直し

以上の内容を継続討議とし、来期には策定案示す。

◇学科の検討は、講座検討委員会として、新たなメンバーで素案を作成し、募集委員会と合同で検討したが、結果として応募者増員の基にはならなかった。

◇政策学科の「地域福祉を学ぶ科」のカリキュラム内容を改善したが応募者が少なかったため、次年度以降に問題点を残した。(カリキュラム内容・教室の場所・その他)

◇関西アーバン銀行の代替教室と駅近くの新たな教室の確保をするため、引き続き情報収集した。代替案として豊中市の登録団体(すてっぷ、くらし館)に加入した。

◇市民大学企画部においては、「とよなか市民カレッジ」を設立した。

◇教務部においては、CA一人体制や初めてのクラスアドバイザーには、1学期中は、教務部員

が教室に出向き対話しながらフォローやアドバイスを行い、教室運営もスムーズにいった。

また、連絡事務所が一本化され講座準備の印刷に来るクラスアドバイザーと教務との交流も深まり早期の情報収集が出来対応もタイムリーに行えるようになった。

7期クラスアドバイザーも受講生の中から7名の方に受託を頂いた。

また、講座企画部のメンバーとしてクラスアドバイザーにも検討部会に参加して頂いている。

◇事業部においては昨年同様、財政運営の安定的な基盤づくりに寄与し、ONCCの活動のPRに繋がる関係事業や「公開講座」、「ONCC記念行事」を中心に関係部門との連携のもと、各種事業を推進した。

◇総務部（事務・経理）においては、厳しい財政運営の中で、各部に合理化と省力化の徹底をお願いし一定の成果が見られた。

また、事務所の運用面では、各部との協力により常勤体制をはかり、平日の事務所の空きが無いように努めた。

◇募集委員会においては、4月に、新規学科検討会（講座検討委員会）を発足し既存学科、継続学科、新規学科それぞれにクラスアドバイザーと検討した。

◇広報部においては「募集委員会」および教務部・事業部・総務部と連携し、ホームページの運用と拡充のため、昨年同様に各学科ブログのため講習会を実施した。また、各種チラシ作成のスタッフ確保のためにIT研修を開始した。

ONCCニュースの編集・作成、及び事業部公開講座チラシ作成にも寄与した。

◇地域連携渉外部においては、各部との連携は当然のことながら、北摂各市・町の行政、社協、同窓会・SAと連携を図ると共に新たに、豊中市・豊能町教育委員会の後援が承認された。懸案となっている地域密着と教室確保に努めてきたが、今後も継続していく。

◇ふれあい事業推進部においては、昨年同様に地域の交流、高齢者や体の不自由な方々に対する支援などの社会共生活動事業を実施した。

①とよの農園②ふれあいサロン③歩こう会④活動会を実施した。②のふれあいサロン事業の子ども食堂においては、豊中ゆめ基金の助成を受けて事業を実施した。